

## 旧郵趣会館オープンの頃

永吉 秀夫



私が日本郵趣協会(JPS)に入会したばかりの1969年(昭和44年)4月4日、東京・新宿駅南口近く(所在地は渋谷区代々木二丁目)、今は亡き「郵趣会館」という7階建てのビルがオープンしました。上層階には協会の事務局が入り、2階に協会ショールームが設置されたほか、地階には切手商8店が軒を連ねました。その後しばらくたってから、1階に郵便局(代々木二局、後に郵趣会館内局と改称)も開局しました。

上はその郵趣会館の開館記念カバーで、開館日の代々木局4並び印が押されています。その頃入会していたFDC頒布会でオマケとして頒布されたカバーです。

右は自作の記念品で、開館の約2週間後に開催された切手展のパンフレットの、切手展の初日(44.4.19)小型印を押しました。パンフレット内側は協会の紹介と展示作品リストになっ

ていて、水原理事長はじめ当時の収集家が名を連ねています。特別出品作品として、江崎恵海氏の「郵便創業時期のエンタィア」(東洋初の国際展グランプリ作品)が展示されました。先日亡くなられた天野正治氏も、「国立公園切手の使用済」という作品を出品されています。

